



比で腹腔鏡手術指導

松波病院 小林副院長が執刀

腹腔鏡手術の技術を
フィリピンの医師に伝
えようと、松波総合病
院（羽島郡笠松町）副
院長の小林建司さん
（53）がフィリピンのケ
ソン市を訪れ、同手術

の指導を行った。小林
さんは「手術の方法を
教えるだけでなく、現
地の医療の現状や課題
が分かり、いい勉強に
なった」と振り返る。
同手術は腹に数センチの
穴を開け、そこからカ
メラや手術用具を差し
込んで、モニターを見
ながら施す。開腹手術
に比べ傷は小さく、術
後の回復も早いとい

う。小林さんは大腸が
んの同手術で優れた技
術を持ち、県内で初め
て日本内視鏡外科学会
から大腸部門の技術認
定医になった。

誘いを専門の近い名
古屋市立大学の竹山廣
光教授から受け、5人
のスタッフとともに3
月15日から22日まで、
ケソン市に滞在。地元
の市立総合病院で大腸
がんなどの手術を執刀
し、手ほどきした。補
助のみも含め手術は11
件に及んだが、いずれ
も成功。患者の術後の
経過も良好だったとい
う。

小林さんは「現地の
医師は大変真面目で熱
心。ただ環境が整備さ
れておらず、病棟や手
術室は不衛生で医療器
具も十分でなかった。
貧富の差も激しく、腹
腔鏡手術の医療費を払
えない患者もいるなど
課題は多い」と。その
上で「今回とても感謝
歓迎してくれた。今後
も機会があれば協力し
たい」と話した。
（玉田健太）